

2014年3月期 第1四半期決算 カンファレンスコール 質疑応答(要約)

Q. 売上高が計画をかなり上回っていると見ているが要因は何か？

A. 今期は制度改正の無い年であるため、もともと制度改正の有る年に比べると低い伸びを予測していましたが、当社の営業努力が徐々に功を奏してきたことに加え、2018年3月末までにジェネリック医薬品の数量シェア60%以上という目標を含む「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」が厚生労働省から4月に公表され、行政や医療機関がジェネリック医薬品の使用推進に積極的に取り組まれたことや、健保組合による差額通知効果等が重なったことなどにより、計画を上回ったとみています。

Q. 原価率が大きく改善した原因は何か？

A. 前期の第1四半期は、薬価改定の影響に加え、新基幹システムSAP導入に伴う稼働率低下等により原価率が通常よりも低下しましたが、今期の第1四半期は、製品ミックス改善と原価低減努力により変動原価率が改善したこと、関東新工場建設等による固定費増が当初想定を下回ったことなどが主な要因です。

Q. 今後、原価や販売管理費が増え、計画線との差が縮小するとのことだが、何が増えるのか？

A. 試験研究費の進捗が遅れています。その他、計画に比べて人員の採用が遅れていますので、今後こういった支出について増加することを見込んでいます。

Q. 計画よりも進捗が良いが、計画の修正はしないのか？

A. 売上に関しては、下期の売上計画値が上期に比べ高いことと、下期には制度改正前・消費税施行前の買い控えが予想されること、また、利益に関しては、販売管理費と人件費等一部の固定費が第2四半期以降増加すると見込んでいることから、現時点では計画の修正はいたしません。

Q. 新製品の売上状況はどうか？

A. 今期の6月・12月新製品の合計売上計画は8億円です。それに比べると当社の新製品の売上は出足好調と見えています。

Q. 前回の話では、円安影響や原薬の複数ソース化対応で原価率悪化予想を説明していたがどうなったのか？

A. 円安は想定線で落ち着いてきています。また、原薬の中には価格引き上げ要求があるものもあれば、複数ソース化対応に伴う競合による価格競争や購入数量増加に伴う値引き効果も出てきています。このことから、計画に比べて大きく悪化するとは見ておりません。

以 上